

サポート

No. 187

令和4年11月2日発行

県教育庁特別支援教育課指導班

第21回 秋田県特別支援学校総合体育大会

「第21回 秋田県特別支援学校総合体育大会」が、9月16日（金）に秋田市の県立中央公園スポーツゾーン、秋田テルサ、あきた総合支援エリア、雄和体育館、栗田支援学校で開催されました。本大会は、一昨年度と昨年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止となりましたので、3年ぶりの開催でした。県内の特別支援学校15校、中学校3校から参加した総勢923名の選手が、日頃の練習の成果を発揮し、大会テーマ「みんなに届け！～感動の声援（エール）～」にふさわしい熱戦が繰り広げられました。団体競技の結果を報告します。

バスケットボール	男子	1位 能代支援学校	2位 栗田支援学校
	女子	1位 能代支援学校	2位 ゆり支援学校
ネオホッケー	1位 稲川支援学校	2位 ゆり支援学校	
グラウンドゴルフ	小・中の部	1位 由利本荘合同A	2位 栗田支援学校
	高の部	1位 大曲支援学校せんぼく校	2位 横手支援学校
ピン倒しボール	小の部1位 栗田支援学校C	中の部1位 比内支援学校かつの校	高の部1位 能代支援学校
サッカー	1位 ゆり支援学校	2位 大曲支援学校	
ボッチャ	OP小・中	1位 支援学校天王みどり学園	2位 ゆり支援学校B
	OP高	1位 横手支援学校C	2位 大曲支援学校A



サッカー

大会の様子



ピン倒しボール



フライングディスク



ネオホッケー



第 50 回秋田県特別支援学校 学校展

学校展は、昭和 47 年に、盲学校、聾学校、県立養護学校（旧 秋田養護学校）学校展としてスタートしました。特別支援学校で学ぶ幼児児童生徒の学習の様子や教材・教具、作品、作業学習製品等を紹介し、特別支援教育への理解啓発を図ることを目的としており、第 50 回を迎えた今年度は、県内特別支援学校 12 校 3 分校、1 分教室が参加し、3 地区に分かれて開催しました。各地区の様子を紹介します。

県央地区 8月27日(土)

会場：秋田駅連絡通路ぽぽろーど東側

今年度は、県央地区 7 校の学習の様子を紹介するパネルや、知的障害を対象とする特別支援学校 4 校の作業学習製品等を展示しました。

この日の秋田駅は、大曲の花火大会へ向かうための人出が多く、約 370 人の方が足を止めて展示を見てくださいました。作業学習製品の説明を求められたり、購入を希望する声があったりと、製品の良さや各校の特色を知っていただく、貴重な機会となりました。



学校紹介パネル



作業学習製品展示

県南地区 9月3日(土)

会場：イオンモール大曲「稲穂の広場」

今年度も感染拡大防止の観点から作業学習製品販売会や児童生徒のパフォーマンスを取りやめ、県南地区 4 校とかがやきの丘 3 校（視覚支援学校、聴覚支援学校、秋田きらり支援学校）の学校紹介パネル、児童生徒の作品等の展示のみとしました。開催中は、足を止めて展示を見てくださる方が途切れることなく、「去年もやっていたね」「この製品、家にもあるよ」などと声を掛けてくださいました。回数を重ねることで、地域に学校展の開催が定着してきていることを再確認することができました。



「稲穂の広場」での展示

県北地区 9月23日(金)～25日(日)

会場：いとく大館ショッピングセンター

7 年ぶりの開催となった大館会場では、県北地区 4 校とかがやきの丘 3 校、特別支援学校体育連盟・文化連盟の取組を紹介しました。また、学習の取組を直接地域に発信するため、比内支援学校高等部の生徒が、草木染めと陶芸体験の講師役を務めました。来場者からは、「各学校の取組を知る機会が少ないので大変よい」「頑張っている様子がよく分かった」「丁寧に教えてもらいよかった」という感想が寄せられました。生徒からは、「緊張したが感謝の言葉をもらいうれしかった」という感想が聞かれました。地域の方々に特別支援教育を広く理解していただくとともに、生徒も学習の成果を実感できたよい機会となりました。



陶芸体験

ICT 活用実践紹介

高等部作業学習「総合サービス班」清掃作業におけるタブレットの活用 県立比内支援学校たかのす校 教諭 藤本 博明

たかのす校高等部では、今年度、作業学習に「総合サービス班」を新設し、主に清掃作業や受託作業に取り組んでいます。マニュアルに則った清掃作業に初めて取り組む生徒が、主体的に活動できるように、タブレット上の各種シートを活用した実践を紹介します。

①分担表

メンバーの担当箇所や清掃終了箇所について、リーダーがタブレット上の分担表でチェックしながら清掃を進めた。

②手順表

清掃中、グループごとにタブレットを携行し、いつでも手順を確認できるようにした。各工程で気付いたことや気を付けることをリーダーが手順表にタッチペンで書き込み、全員で共有した。

③振り返りシート

グループ単位で本時の活動を振り返り、一人一人のできたことや気を付けたことをリーダーがシートにタッチペンで書き込んだ。シートをクラウド上に保存し、別のグループもそのシートを見て、情報を共有した。



【生徒の変容】

- ・タブレットで手順や大事なことを繰り返し確認することで、一つ一つの工程がある理由や、清掃で気を付けることを理解できるようになった。
- ・各工程の理解が深まり、作業学習で設定している「技能検定」にスムーズに合格するようになった。

【今後のICT活用に向けて】

- ・生徒全員が活用できる機会の設定
- ・清掃方法の映像化
- ・仕上がりの判断基準の視覚化
- ・清掃箇所や連絡事項等を生徒全員で共有し、チェックするシステムの構築

第四次秋田県特別支援教育総合整備計画の素案について

県教育委員会では、本県特別支援教育の推進に向けて5年間の計画を策定しており、平成30年度から実施の第三次秋田県特別支援教育総合整備計画が、今年度で終了となりました。そこで、来年度から5年間の第四次秋田県特別支援教育総合整備計画（以下、第四次総合整備計画）の策定に向けて、現在取り組んでいるところです。

基本理念は、これまでの「自立と社会参加」に、特別支援教育として大事にしたい考え方として「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実」を加えています。また、計画の内容は、以下の4つの柱で構成しています。障害のある幼児児童生徒など一人一人の学びを中心とし（柱ⅠとⅡ）、各学校（園）で指導・支援に当たる教職員の専門性向上（柱Ⅲ）、そして一人一人の生活全体を支える関係機関との連携や県民の理解（柱Ⅳ）となっています。

- 幼稚園・保育所・認定こども園等、小・中・義務教育学校、高等学校における特別支援教育の推進
- 特別支援学校における教育の充実
- 教職員の特別支援教育に関する専門性の向上
- 切れ目ない支援に向けた関係機関の連携強化と特別支援教育への理解推進

第四次総合整備計画の素案に係るパブリックコメントとして、10月3日から11月4日まで、県のホームページ等で公開しております。

多くの皆様からのご意見をお待ちしております。

第四次秋田県特別支援教育総合整備計画 （素案）

令和5年度～令和9年度

自立と社会参加

～一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実～



令和4年9月

秋田県教育委員会

第四次総合整備計画（素案）は、こちらのページよりダウンロードできます。

